

国語学習評価問題 — その1 —

— 中学二年生のばあい —

湯 浅 温 子

はじめに

昭和三十五年四月、わたくしははじめて教職についた。ここに掲載させていただくのは、そのわたくしの、教職生活一年めの、一年間にわたる国語学習評価問題（中間試験・期末試験・模擬試験・随時テスト）のすべてである。どの評価問題も、未熟で、いたらない点が多いのであるが、わたくし自身の反省の資とするために、あえてありのままを報告させていただくことにした。

評価問題に対する考察は、ほとんどなされないままになった。これについては、他日を期したいと思う。

なお、この評価問題は、すべて同僚の内田先生と共同で作成したものである。公表をお許しいただいた内田先生に深くお礼申しあげたい。

このつたない実践報告が、昭和三十五年代における国語学習評価実践の実態を示す一資料として、国語教育史研究に役立つ日があるならば、望外のしあわせである。

一、国語学習評価問題一覽

○実施年度 昭和三十五年度

○対象 小倉市立企教中学校二年生

○使用教科書 金田一京助編「中等国語」(四訂版)

○問題一覽

二 学 期	一 学 期	単 元 名	評 価 内 容	定 期 テ ス ト	実 施 期 日
6 会議を開いて	1 詩と短歌	1 詩と短歌	①あなたの学習の成果をためそ	① 学期中	35・5・30
7 説話を味わ	2 親しい交わり	2 親しい交わり	②まとめテスト	② 1学期末	35・7・2
8 ことばの生活	3 シナリオ	3 シナリオ	③ことばの学習	③ 1学期末	35・7・2
9 文学を味わ	4 古文に親しむ	4 古文に親しむ	(なし)	(なし)	
7 説話を味わ	5 生活をつどろ	5 生活をつどろ	④2年国語テスト	④ 2学期中	35・10・28
8 ことばの生活	6 生活をつどろ	6 生活をつどろ	⑤ことばの学習	⑤ 2学期末	35・12・9
9 文学を味わ	7 (ことばの学習)	7 (ことばの学習)	(なし)	(なし)	
1 登山口で	8 中間考査	8 中間考査	⑥2学期末	⑥ 2学期末	35・12・9

学 期		10		11		12	
8ことばと生活		二掲示を尋ねて		二掲示を尋ねて		二掲示を尋ねて	
⑩学習プリント		掲示を尋ねて		⑧推敲のめあて		⑨学習プリント	
⑪三学期		⑫国語科		⑬九テス		⑭三学期	
36		2		36		3	
2		7		36		3	
⑮三学期		⑯三学期		⑰三学期		⑱三学期	
36		3		36		3	
2		7		36		3	
⑲三学期		⑳三学期		㉑三学期		㉒三学期	
36		3		36		3	
2		7		36		3	

二、評価問題とその成績

①あなたの学習の成果をためそう。

一 「元気だ。安心してくれ。」と言え、
「元気だ」の次に女の切れ目があります。「元気な顔をしている。」と言え、
「元気な」の次に文の切れ目はありません。

次の□の所に文の切れ目があるでしょうか、
「元気だ」の次に女の切れ目がある歌の番号に○を付けなさい。

イ くれなるの二尺伸びたる□ばらの芽の針やはらかに春雨の

ふる

ロ あげがたのそゞろあるきにうぐひすの初音ききたり□やぶ

かけの道

ハ 春の谷あかるき雨の中にしうぐひすなけり□山の静けさ

ニ つみ草のにはひ残れる□指先を洗ひてをれば野に月のいづ

ホ 遠くより笛なが〜とひびかせて汽車今とある□森林に入

る

へ 雨にぬれし夜汽車の窓に移りたる□山あひの町のともしび

の色

ト 二つゐてくわくこう鳥の鳴く聞けばこだまのごとし□かはるがはるに

二 次の上の欄のことばをどう読みますか。読み方を現代かなづかいで書いてごらんください。

① くれなる	⑨ れんぐわ
② やはらかに	⑩ 山あひの町
③ 春のゆふべ	⑪ かはるがはるに
④ くわくこう	⑫ にほひ
⑤ 答へて	⑬ うぐひす
⑥ つひに	⑭ 初音
⑦ かはづ	⑮ 春雨
⑧ けふ	⑯ よひ月夜

三 次の短歌をよく味わって、あとの批評に最もよく当てはまると思う歌を、その番号で記入しなさい。

1 沈ちんちやう子花春のゆふべの庭の面に冷たくにはひひろごりにけり

2 遠つあふみ大河ながるる岡なかは涼の花咲きぬ富士をあなたに

3 餘日がさをかなたの岸の草になげ渡る小川よ春の水ぬるき

4 夏のかぜ山より崇たり三百の牧まきの若馬耳吹かれけり

5 人遠くゆきて帰らず秋の日の光しみ入る石だたみ道

6 石がけに子供七人腰かけてふぐをつりをり夕焼け小焼け

7 春の夜のしらく／＼あけを船いづる雨の伊豆の濃みどりの海

四 次の短歌は、石川啄木の歌集「一握の砂」の中にある一首です。この短歌をよんで、左の問に答えなさい。
ふるさとのなまりなつかし停車場の

人ごみの中にそをききにいく

(問1) この短歌にうたわれている場面はつぎのどれか、もつとも適当なものの記号を○でかみなさい。

(イ) ふるさとから、一人はなれていて、たいくつなので、それをまぎらすために停車場の人ごみの中に来ている場面。

(ロ) ふるさとの停車場へ来てみると、なつかしいなまりのあることばがきこえて来るので、人ごみの中でそれを聞いている場面。

(ハ) ふるさとのなまりのあることばがなつかしいので、それをききに停車場の人ごみの中に来ている場面。

(ニ) ふるさとへなつかしい友がかえるので、それを見送りに停車場へ来て、人ごみの中にいる場面。

(問2) この短歌に取り入れられている材料はつぎのどれか、もつとも適当なものの記号を○でかみなさい。

(イ) 日常生活の中からの材料 (ロ) はなやかな空想の材料 (ハ) 比喩(たとえ)的材料 (ニ) 古い和歌形式をまねた材料

※

a 広々とした感じのする歌 () () () () () ()

B ひっそりと静かな感じのする歌 () () () () () ()

C のどかな感じのする歌 () () () () () ()

② 昭和35年度一学期中間考査第二学年国語科

組 () (番号) () (氏名)

35・5・30

一次の詩をよく味わって、あとの問に答えなさい。

〔 〕 笹 沢 美 明

イ どうとうと 落ちる

ロ 天から まっすぐに 落ちる

ハ いっほんの 水ばしらが

ニ かげのとちゅうの 木の葉 () 草も

ホ しぶきにぬれて 青い

ト ぼくらの髪 () 手も びっしりだ

ヘ きみは ぼくに なにかいっている

チ きみは となつている

リ なんと 大きな口だ

ロ なんと まっかな顔だ

問1 〔 〕 内に、この詩の題を書きなさい。

問2 () 内に、この詩の内容に適した助詞を書きなさい。

問3 この詩を二節に分けるとすれば、どこで区切るといいか、適

当な場所の記号を○で囲みなさい。

問4 ーの語から各々一つを選び、その語を、次の() 内に書

きなさい。

1 () () は、水の激しい音をそのまま表現している。

一、次の文は、特に地位の高い人や、えんりょのいる人に人を紹介する場合のきそくですが、()の中に適当な語を入れなさい。

(1) 両方の人をお互に引き合わせる場合には、先に目下の人を、
() () の人、あるいは、えんりょのいる人に引き合わせる
こと。

(2) 一方だけを引き合わせる場合には、() () の人、あるいは、えんりょのいない人の方 () () を引き合わせることに。

(3) 両方の人と同じくらいの地位や () () の場合には、やり方は () () です。

二、次のような場合は正しいですか。正しくありませんか。言いなさい。

(1) (木村先生に) 「木村先生です。」 () ()

(2) (山本先生に) 「私の姉です。」 () ()
(ええさんに) 「私たちの山本先生です。」 () ()

(3) (友だちに) 「私たちの田中先生です。」 () ()
(田中先生に) 「友だちの平井君です。」 () ()

(4) (田中先生に) 「これが私の弟です。」 () () () ()

三、依頼の手紙を書く場合にたいせつな注意を次のうちから三つ選び、その番号を○でかこみなさい。

- 1 なるべく遠まわしに頼む。
- 2 先方の労を思い、心をこめて書く。
- 3 頼むことがらをはっきり正確に書く。

4 えんりょしながら頼む。

5 できるだけいいねいなことばを使う。

6 率直に真情をのべてお願いする。

四、次のはがきは、山田君が高等学校入学者選抜試験に合格したときに出したものです。これを読んであとの間に答えなさい。

おちさん、おかげさまで合格しました。ほくもいよいよ待望の高校生です。父母もほんとうによかったね。いってお喜びになってくれました。

入学の準備もできましたら、ごあいさつがてら遊びにあげます。

おばさんや道夫さんにもよろしく。

①この章に「」をつけなさい。

②文章中の漢字とかなづかいの誤りを正しなさい。

③ことばづかいの不適當な所を正しなさい。

④ の中には、次のどの語を入れるのが適當でしょうか。

- 1 草々 2 敬具 3 さようなら 4 かしこ

五、次の文は、ある手紙の文をばらばらにしたものです。よく読んで、もとの順序になるように、その番号を書きなさい。

① 先生にはなにとぞおからだをたいせつにあそばされますようお祈り申しあげます。

② たいへんお暑い日ばかり続きますが、お変わりございませんか。おうかがい申しあげます。

③ 敬具。

●形容詞と形容動詞

「どんなだ」という状態や性質をいう単語

(一) 次の文章中の——線をつけた形容詞の活用形の名を示そう。

風はつめたくあたりはさびしかろうと私の足どりは軽かった。もし私に、深しい夢に対する期待がなかったら、この風景の重苦しさに、私もまた圧倒されたに違いない。

(二) 次の文章から、形容詞・形容動詞をぬき出して区別し、かつ、そこにもちいられている活用形の名を示そう。

1 文鳥はつとくちばしをえつほのまんなかに落した。そうして二、三度左右にふった。きれいにならして入れてあつたあわが、はらはらとかごの底にこぼれた。文鳥はくちばしを上げた。のどのところでかすかな音がする。またくちばしをあわのまんなかに落す。またかすかな音がする。その音がおもしろい。静かに聞いているとまるくて、こまかやかで、しかも非常にすみやかである。

2 雪はそう音のしないものである。しかし、ひどくなると、こまかい音が続いて聞えて来る。それが木の葉などにあたると、雨とはちがつておもしろいものである。また雪でなく、あられなどがかたい木の葉にあたるのもおもしろい。

3 森の中には一本のこさなきれいなもみの木がありました。そこはよいところで、お日さまがよくあたり、空気はすんでいました。けれども、このこさいもみの木は、もっと大きくなりたいといつも思っていました。

4 ここから道はなだらかになる。しばらく行くと林がつきて右手に平野が見わたされる。一面の青い麦畑の中に白くどこまでもうわっているのが今歩いて来た道である。

〔ことばの学習〕——形容詞・形容動詞——

● 次の文中——線のある語は形容詞でしようか、形容動詞でしようか。区別しなさい。なお①～⑩の語については、活用形の名も書きなさい。

1 けんかしたあとで兄がものを言わなくなると、ぼくは悲しかった。気が短いという欠点を除けば、ぼくにとって非常によい兄さんだった。

2 海はおだやかだった。月がしずんだあとの空には、赤く夕焼けた空が、その方からしだいにうすれ、頭の上にはすずしい色をした夕方の空がひろがつて来た。目に見えるすべてのものが、

④ 静かな夕ぐれであった。

3 絵がへたで、字がじょうずだ。

4 手はきれいで、足はきたない。

5 よい心がけをもつていながら、弱いばかりに、その心がけを生かしきれないでいるこさな善人がどんなに多いか。世間には、悪い人ではないが、弱いばかりに、自分にも他人にもよけいな不幸を招いている人が、決して少なくない。人類の進歩と結びつか

ない英雄的精神もむなししが、英雄的な気はくを欠いた善良さも同じようにむなししいことが多いのだ。

6 カヤ公には、自分の好きなものを、随分きの畑に穴をほって貯蔵しておくという、ふしぎなくせがありました。

⑤ 一学期末考査第二学年国語科

その1 35・7・2

() (組) () (番氏名) ()

(一) 次の手紙文について、後の問に答えなさい。

(1) きのうは、ぼくばかりでなく、妹までもおじやまさせていたゞき、まことにありがとうございました。三人とも無事に帰りました。(2)、ほんとうに楽しく半日を過ごすことができました。いろ／＼お心尽くしのごちそうを(3)が、中でもおはぎが特別おいしかったです。それから、おにい様たちの大へんじょうすな劇も印象の深いものでした。

くみ子は、いたゞいて帰ったほたるを、さっそくかやの中に放して大喜びでした。そして、楽しかった祭の様子を、ぼくと代わる代わるうちの者に(4)。あ、お宮の森から聞えてきた祭ばやしが、今でも耳に残っています。くみ子は、森の緑の中に赤い祭のほりがちら／＼していた様子を、絵に書くんだと(5)。

くみ子の手紙も同封します。くみ子は、絵はじまもなくせに、字はへただからと言って、ひどく困っていました。ぼくだって、字も文もへただけれど、思ったまゝを書きました。ぼくだ

ぼくらの町の秋の祭には、今度はあなたが(6)。春雄君や

くみ子たちと、大いに歓迎しましょう。

お宅のみな様にも、どうぞ(7)よろしく(8)。うちの

(9)からもよろしく(10)。

(11)

問(1) 次の語群から()の中に入れる適当なことを選び、その

記号を○で囲みなさい。

- (1) イ 拜啓 ロ 拜復 ハ 前略
- (2) イ さて ロ ところで ハ おかげさまで
- (3) イ 食べました ロ いたゞきました ハ めしあがりました
- (4) イ 話しました ロ お話しました ハ お聞かせしました
- (5) イ おっしゃっています ロ 言っています ハ 申しあげています
- (6) イ 来なさい ロ 来とるいい ハ おいでください
- (7) イ います ロ とり急ぎ ハ くれ／＼も
- (8) イ 言ってください ロ お伝えください ハ 言いなさい
- (9) イ 父・母 ロ おとうさん・おかあさん ハ 父上・母上
- (10) イ 言いました ロ おっしゃいました ハ 申しました
- (11) イ 草々 ロ かしこ ハ 敬具

問(2) この手紙は、野村善吉君が親友高松春雄君のいとこにあたる島田みち子さんの家に、七月三日、招待された時のお礼状です。 [] の中に、適当なことを書きなさい。

- (一) 手紙を書くことについて、次の各欄に答えなさい。
- 1 用件を書く時の心得を書きなさい。

2 用件の中で、依頼の場合の心得を書きなさい。

3 用件の中で、招待の場合の心得を書きなさい。

(三) 次の——の語を漢字になおして、()の中_に書きなさい。

() () () () () () () () () ()

あくじをはたらく はずかしい とくいになる 地獄のせめ苦

一学期末考査第二学年国語科 そのⅠ

() (組) () (番氏名) () ()

1 夏の夕方。あたりはもう薄暗い。

縁側では父は涼みながら、大きくうちわを使っている。

母は、長火ばちの上に置いたランプのもので、お針の手を運んでいる。だれかを察しているふうで落ち着かない。そばにふきんをかけたちゃぶ台。

カメラは、初め庭の方から父と母の姿をとらえ、次に母の心配そうな横顔。T・U。カメラ近づくとつれて、時計の刻む音、大きくなる。母、(イ)

2 時計(C・U)七時半ごろをさしている。(セコンドの音。大きくひびく。)

3 母、ため息をして、またお針の手を運びながら、(ロ)

4 ふきんをかぶせたちゃぶ台。向こうにうちわを使っている父が見える。

母の父に話しかける声、「ねえ、あなた、ほんとに時は大丈夫でしょうか。」

5 父、(ハ)

父「心配はいらないよ。おみつが帰って来ればわかるさ。」

6 母、(ニ)

「おみつはまた何をしてるんだらう。また、あのぐずのことだから、のろくさのろくさしているのだらう。ほんとに、しょうがないねえ。」

7 玄関に続く石畳の道を、おみつが帰って来て、玄関の戸をがらりとあける。軽く鼻歌を歌っている。

カメラ、横移動でおみつをとらえる。

8 玄関の戸のあく音。

母、(ホ)

^a「おみつかい。」

おみつのとほけた声、「へえ。」

おみつ、へやにはいって来る。

母「おみつ、おまえ、何をぐずぐずしているんだえ、ほんとに。」

おみつ「へえ。」

と()

母「へえもないもんだ。それで、片山の武^{たけ}さんは帰ってしましたか。」

おみつ「へえ、帰っていました。」

母「そんなら、大村のほっちゃんは？」

おみつ「帰っていました。」

9 母(C・U)せきこんだ調子で、

母「そんなら、うちのほっちゃんはどうか、尋ねましたか。」

か。」

10 へや。

おみつ「へえ。」

母「へえじゃありません。ほんとにおまえのような大ばかがありますか。引ちのぼっちゃんのことを聞かないくらいなら、お使いに行つて、なんの役に立ちます。」

問(1) この文章は、次のどういふ文章の一部ですか。一つえらんで番号を○でかこみなさい。

- 1 物語
- 2 小説
- 3 シナリオ
- 4 劇の脚本
- 5 放送台本

問(2) (イ) から (ハ) までの [] のところは、人物の動作や身振りをあらわすト書の部分です。次の六つの文は、それ／＼どの [] に入れたらよいか、() の中に符号で示しなさい。

- 1 目をぼちくり。() ()
- 2 顔をあげて時計を見る。() ()
- 3 お針の手を休めて、ひとりごと。() ()
- 4 ちらっと父の方を見て、話しかける。() ()
- 5 ゆう／＼とうちわを使っている。() ()
- 6 腰をうかして、() ()

問(3) T・U (トラック・アップ) の記号は次のどの意味ですか。

番号を○でかこみなさい。

- 1 カメラ横移動
- 2 カメラ後退移動
- 3 カメラ前進移動

問(4) C・U (クローズアップ) の記号は次のどの意味ですか。番号

号を○でかこみなさい。

- 1 全景
- 2 遠写し
- 3 大写し

問(5) O・S (オフ・シーン) を含んでいる画面が三つあります。

その番号を○でかこみなさい。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

問(6) 次の番号の画面には誰がうつっていますか。その番号を○でかこみなさい。

- 3 (イ父) 口母 ハおみつ)
- 4 (イ父) 口母 ハおみつ) ニ時之助)
- 5 (イ父) 口母 ハおみつ)
- 6 (父) 口母 ハおみつ)

問(7) 私たちのふだんのことばには、

(イ)表面の意味のとおりのも、と

(ロ)うら側の、表とは違う意味の方がたいせつなものと同じりあります。

上の文章中の——線の部分(a……d)はどちらの意味にとればよいでしょうか。(イ)・(ロ)の符号で答えなさい。

a	b	c	d
---	---	---	---

問(8) 次の漢字の読みを書きなさい。

- 薄暗() (い) 縁側() () 刻() (む)
- 玄関() () 石畳() ()

一学期期末考査成績

クラス	男子の平均	女子の平均	クラス平均
二の五	六五・五	七四・〇	六九・二
二の六	六四・五	七二・三	六七・九
二の七	六三・一	七一・三	六六・七
二の八	六六・一	七〇・八	六八・一

⑥ 二年国語テスト

生活をつづろ

二年 組

(一) 次の文を読んで、後の問に答えなさい。

「いた、いたぞ。」とだれか叫んだ。「わあ、わあ。」「追っかけろ！」一匹、また一匹。みんなはうさぎを見つけたので、もうなにもかも忘れて、先を争いながら駆けた。うさぎの逃げ足は速い。

- (1) この文からうける感じは
イ 美しい ロ きびきびしている ハ 大へん静かでのんびり
している ニ 悲しそりに思える
- (2) これは何を追っているのですか。 () ()
- (3) うさぎは一匹だけですか。 () ()
- (4) 感動詞を選んで で囲みなさい。
- (4) 形容詞を選んで ○ で囲みなさい。
- (二) 次の問に答えなさい。

(1) 次の文の中で形容動詞はどれか、 で囲みなさい。
広い 静かな 明かるい 便利な 家がある。

(2) 形容詞とは、どんなに見分けるのですか。 () ()

(3) 「元氣だ」というのは、形容動詞ですが、どのように活用しますか。次の中に入れて下さい。

かれは元氣 () う。きのうは元氣 () た。わたしは元氣 () ある。元氣 () 遊ぶ。あの人は元氣 () ()。元氣 () 人もし元氣 () いい。

(三) 次の文を読んで、後の問に答えなさい。

「どうなさったの。」と聞きますと、「げたがない。」と、

① () あわてぎみに言いました。私は台所の中を一応見渡しました。② () () それらしいものは見当たりません。

③ () 私はおぼのげたがあつたので、貸してあげました。なんだか妙な気持で風呂を取り、あとかたづけのため台所へ行きましたが、④ () () おぼあさんのげたはありません。おぼあさんは、「すみません、すみません。」と言いながらおぼのげたをはいていました。

(1) 文中の () () の中に、次のどのことばをあてはめるとよいか、記号で答えなさい。

イ やはり ロ そこで ハ それから ニ しかし ホ 少々

(2) なんだか妙な気持で風呂を取ったのは、なぜですか。

(3) 「すみません」といっているのは、誰ですか。

(4) それらしいのそれは、何をさしていますか。 () ()

(5) 「げたがない」と、なぜ、少々あわてぎみに言ったのでし
ょう。

(四) 次の漢字には読みを、カタカナにはその漢字を()の中に
書き入れなさい。

- (1) 共同生活 () (2) 台所 () (3) 偉 () ()
- (4) 營 () () (4) ビヨウイン () () (ヘカンビヨウ
- () () () にいく。(6) タイド () () を戒める。(6) ドウゲ
- () () を ダマ () () って ツカ () () う人。(8) 耕
- () () す。(9) 水にウツ () () った夕月 () () のカゲ
- () () を見る。(10) 日雇 () () い (11) シュウカク () ()
- のジキ () () (12) 同じ方向 () () に駆 () () ける。

⑦ 「ことばの学習」 (二)

● 副詞・接統詞・連体詞・感動詞

(一) 次の文中、——線のある語は、すべて自立語で活用しないこ
とばである。それらの品詞名を示そう。

- 1 幼い日にならった歌は、実になつかしい。
- 2 それはある春の日のことであつた。
- 3 ほら、もう春はここまで来ているよ。
- 4 みんないっしょうけんめいやつた。が、ついにその効果はな
かつた。
- 5 秋がまたおとずれた。
- 6 きのうの風で庭の大木が根本からぼつきり折れた。
- 7 きみの帽子はぼくのより少し小さい。
- 8 彼がとつぜん大きな声できけんだ。

9 私は、とうとうやりあげてしまった。

10 すく、バスが来た。

11 父や母もとてもうれしげだった。

12 学校まで、かなり遠い。

13 太陽は、あらゆる生命の源泉です。

14 これは、わが国の特産物です。

15 「やあ、こんにちは。」

16 おお寒い。けれど、起きなくてはならぬ。

17 やはりきょうも寒い。

18 これはずいぶん便利だ。

19 もつとゆつくり歩け。

20 ずつとむかしの話だ。

(二) 次の文の()の中に、下のことばを入れたらすじのと

- おつた文になるか。考えよう。(答は番号で)
 - 1 () () 山のような荷物だ。 1 たいそう
 - 2 () () 帰るでしょう。 2 まるで
 - 3 () () はつきり見えます。 3 たとえ
 - 4 () () 許せない。 4 どうか
 - 5 () () おかけください。 5 決して
 - 6 () () どんなに苦しくても、最後までが
んばろう。 6 まさか
 - 7 () () そんなことはあるまい。 7 たぶん
- (三) 次の文章から、接統詞・感動詞をぬきだそう。
- 母がにがいました。「まあ、おまえたちは、どうしてそん

なにおぎょうぎがわるいのでしょうか。その歩きかたは横ばいですよ。「でも、おかあさん、ぼくらのなかまは、みんなこの歩きかたです。では、おかあさん、あるいて見せてください。」そこで、母は、「さあ、よく見ておいでなさい。」といって、すまして歩きだしたのを見ますと、やはり横ばいでした。

(四) つぎの——線をつけた語のうちから、副詞・接続詞をそれぞれ二つずつ選べ。

お客が①庭に植えてある竹の先に笠が②かぶせてあるのを見て、③しきりに「④やあ、不思議、不思議。」と感心する。⑤そこで、主人が⑥そのわけを尋ねた。⑦すると、お客は、⑧「よくもあんなに⑨高い先まで⑩届くようなはしごがあったものです。」と言った。

⑧昭和三十五年度第二学年中間考査の国語科二年の問題

35・10・28

() (組・氏名) ()

一 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

これまで、むずかしい顔ばかりしていたひげづらが、もじゃ／＼のひげの間から白い歯を現わした。これまで、そむけそむけしていた婦女子の顔にも、まっさおな入れ墨の中から白い歯が見えた。明らかにみな笑ったのである。中には向こうから、あみを持っている手をふって見せて、「ヤー(あみ)」と言ったり、砂地を指さして「オタ(砂)」と言ったりした者もある。急いで手帳に書きつけながら、その発音をまねすると、ふしぎそうに手帳を見に寄って来る者もあった。婦女子の群れでは、

「いつ覚えたろう。」とか、「よく覚えたものだ。一とか言うらしい感嘆の声をあげた者もあった。

こうした間に、私と全舞台との間をさえぎっていた幕が、一ぺんに切つて落されたのである。さしも越えにくかった禁園のかきねが、急に私の前に開けたのである。ことばこそ、堅く閉ざした心の城府へ通う唯一の小道であった。こゝに至つて、私は何ものをもためらわず、すべてを捨てて、まっしぐらにこの小道を進んだ。それはほとんど狂熱的だった。

問1 この作品の作者名と作品名とを書きなさい。

作者名() (作品名) ()

問2 この作品(全文)の中での作者の気持の変化は、次のどれがもっとも正しいと思いますか。記号を○で囲みなさい。

イ 希望—さびしさ—嘆き・もだえ—うれしさ—なごりおしさ
ロ 希望—なごりおしさ—嘆き・もだえ—さびしさ—うれしさ
ハ なごりおしさ—さびしさ—嘆き・もだえ—うれしさ—希望
問3 作者がこの土地に来て、手帳に最初に書きつけることのできたことばは何ですか。カラフト—アイヌ語で書きなさい。

() ()

問4 「白い歯を現わした。」「白い歯が見えた。」というのは、どんなことなですか。本文のことばで説明しなさい。

() ()

問5 「堅く閉ざした心の城府」の意味に似た単語を二つ、本文から選び出しなさい。

() () ()

問6 この作品の原文には、「とめをはずした水のいきおい。」と

いうことばが入っています。本文のどこに入れたらいいでしょうか。適当と思ふ場所の右に△をつけなさい。

問7 本文中の——の語の品詞名を書きなさい。そして、活用する語には、() 内にその活用形を、活用しない語には、() 内に×を書き入れなさい。

むずかしい	……	詞	()	形
まさおおな	……	詞	()	形
その	……	詞	()	形
あつ	……	詞	()	形
群れ	……	詞	()	形
こそ	……	詞	()	形
ほとんど	……	詞	()	形

問8 次の各文は、この作品についての感想文の一部です。それぞれ、表現のよくないところがあります。後の批評文に対して適当な文を一つずつ選び、() 内にその記号を入れなさい。

イ この作品を読んで私が思い出すのは、この夏、鹿児島に旅行して、そのことばがまったくわからず、困ったことを思い出した。

ロ 初めは、この題をなぜ「心の小道」としたのであるとわからなかったのですが、読み終ってから、なるほどと首をかしげました。

ハ 私はこの作品では、動詞の現在形がつけざまに使われていたり、名詞止めが多かったりするので、その様子をまのあたりに見る思いがした。

ニ 私はこの本を読んでいると、外で遊んでいた妹が帰って来

て、この話をしてくれるようにと言いました。

ホ 私が北海道アイヌ語で、「それは何なの」と言ったら、母はびっくりしていました。

批評文

() () の文では、ことばの意味を知らないで、まちがえて使っている。

() () の文では、同じことばをくりかえして使って、おかしい表現になっている。

() () の文では、必要な句点をうっていない。

() () の文では、助詞の使い方が正しくない。

() () の文では、きまったことばで受けねばならない副詞が上にあるのに、下の受け方をまちがえている。

() () の文では、かなづかいをまちがえている。

() () の文では、主語と述語とが離れすぎている。

昭和三十五年度第二学期中間考査の国語科一年の問題・その2

一次の話し合いを読んで、後の問いに答えなさい。

学芸会に何をやるか。

第一案 コーラスとダンス

第二案 劇

(本日の出席五十一名。まず、二つの議案について「」の(明)質疑応答が終了、議長が、討議に進むことを宣言した。)

1議長 初めに賛成意見を出してください。「コーラスとダンス

」をA案、「劇」をB案と呼ぶことにします。

2 洋子※わたしはA案に賛成します。そのわけは、クラスの一人だけではなく、全部の人が出られるからです。

(※は、発言許可を示す。)

3 議長 A案賛成の意見が出ましたので、先にA案について討論することになります。

4 水野※ほくも、コーラスやダンスで、うんと元気のいいところを見せたいと思います。だから、A案に賛成です。(他に数人から賛成意見が出る。)

5 時田※ほくは反対です。コーラスやダンスは、みんなが得意とは限りません。そうすると、一部のじょうずな人ばかりがやるようになってしまいます。(このほか、反対意見、賛成意見が出て、活発な討論となった。)

6 山下※ [] です。コーラスとダンスに、音楽体操を加えたいと思います。コーラスに合わせて体操をやるようにすれば、みんなが、参加できます。(この動議が可決され、これをA案として、さらに討論が行われた。)

(B案の討論も終わったので、議長が、挙手による採決に入ることを宣告した。)

7 水野※議長、 [] のしかたについて。挙手だと、ほかの人の意見に影響されますから、採決は無記名投票にしてください。(「賛成」)

8 議長 今、水野君から、無記名投票にしたいという動議が出ました。この動議に賛成の人は手をあげてください。

9 議長 賛成二十八名。これは [] ですから、水野君の動議は可決されました。採決は無記名投票にします。(投票

が終る。)

10 議長 投票の結果はA案三十票、B案一九票でした。したがって、二年A組は、学芸会に「コーラスとダンス、音楽体

操」をやることに決まりました。

問1 次の語から適当な語を選んで [] 内に書き入れなさい。

密議 修正意見 否決 絶対多数 閉会 動議 提案理由 可決 議題 過半数 表決 議案

問2 洋子の発言のしかたは次のどちらですか。記号を○で囲みなさい。

イ意見主張から理由説明へ ロ理由説明から意見主張へ

問3 洋子の発言について、意見主張の部分を『』で囲みなさい。

問4 洋子の発言のしかたは、次のだれの発言と同じですか。記号を○で囲みなさい。

3 議長 4 水野 5 時田 6 山下 7 水野

問5 本文中の [] の部分は、次のどの意味ですか。記号を○で囲みなさい。

イ学芸会で「コーラスとダンス」をやることが可決された。

ロ学芸会で「コーラスとダンスに音楽体操」をやることが可決された。

ハ第一案の内容を「コーラスとダンス」のままにすることが可決された。

ニ第一案の内容を「コーラスとダンスに音楽体操」に変えることが可決された。

問6 本文中の……の部分について、可決されたことを正しく書き出みなさい。()

問7 もし水野君の動議が否決された場合には、議事は次のどれに進みますか。記号を○で囲みなさい。

イ 水野君の動議について討論を行う。

ロ 山下君の動議について討論を行う。

ハ A案・B案についてどちらがよいか討論を行う。

ニ A案・B案についてどちらがよいか、挙手で採決を行う。

ホ A案・B案についてどちらがよいか、無記名投票で採決を行う。

問8 会議で、聞く場合のたいせつなことはどんなことですか。わかりやすく説明しなさい。

三 次の漢字を読みなさい。鉛筆をけずって、ひらがなで、右がわに、きちんと書きなさい。

栽培 儉約 戒める 詳しい 思慮 証拠 叙事詩 方針
削る 円滑だ

四 次の□内に漢字を書き入れなさい。

生活きょうどうを□いとなむ上の精神しんせいを□じかくする。はつげんしたい時は□きよかを□もとめる。アイヌ語学上の□まもりんと解決けつげつとを□はつする。会議かいぎの□まもりを守る。うさぎの逃げ足は□はやい。

二期期中間考査成績

クラス	男子の平均	女子の平均	クラス平均
二の五	四一・二	四九・四	四四・六
二の六	四〇・二	四六・八	四三・四
二の七	三八・一	四九・〇	四二・七
二の八	四〇・八	五二・四	四五・五

⑨ 昭和三十五年度第二学期期末考査国語科の問題

() (組 氏名)

一 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

その日の夕方、おとうさんと佐々雄が、屋間同様、顔も手足もどろまみれになって帰って来ると、おかあさんはおやおやと笑いながら、水をくんでくれた。そして、ふたりがせっせと洗っている耳もとに口を寄せ、声を低めて言った。

①「めんどりがね、うまいぐあいには卵を抱きました。そつと行って、見てごらんなさい。」

あんまり大きな声で話すと、めんどりがそれを聞きつけて、卵が自分たちのものでなく、沼鳥のかるものであることに気でもつきそうに、おかあさんは思っているんだな。……

佐々雄はそう感じると、おかしくて、のどのあたりからくすくす笑った。やがて、おとうさんとふたりで鳥小屋の中の巢をのぞくと、とたんにめんどりは、その首の周囲の毛をさか立てて、キューとうなった。おとうさんは言った。②「この調子なら大丈夫だ。」

問1 この作品の作者は誰ですか。() (またどこの国

の人ですか。)

問2 「彼」とは誰のことですか。() (また「この説教

師」とは誰のことですか。)

問3 「その」は何をさしているのですか。()

問4 「の」は次のどれと同じですか。一つ選んでその記号

を○でかこみなさい。

イ 詩人は、アーネストの人となりだが、これまで自分の書いてき

た詩よりも一段と尊いものであることを感じました。

ロ けれどもアーネストは、自分の語るべきことを語り終ると、

詩人の腕を取って、ゆっくり家路に向かいました。

ハ 今なお、自分よりすぐれた「大きい石の顔」に似た人物がや

がて現われるであろうことを望みながら。

問5 こゝでアーネストについて、作者が最も言いたいことは何で

しょう。次の中から一つ選んで、その記号を○でかこみなさ

い。

イ アーネストのことばは、単に口先だけのものではなく、思想と

全く合致したものであるということ。

ロ アーネストのことばには、ことばと思想がぴったり合ってい

たから力があるということ。

ハ アーネストのことばは、善行と愛に満ちた彼の日ごろの生活

から生れたもので、真実であるということ。

ニ アーネストのことばは、潜りかたで、まるで豊かな真珠が溶け

こんでいるように尊いということ。

四 本の読み方には、どんな方法がありますか。 [] の中に

適当な漢字を入れ、() の中に、その読み方を説明しなさい。

[] 説 ()

[] 説 ()

[] 説 ()

五 次の漢字を読みなさい、右側にひらがなできちんと書きなさい。

い。

募集 勵む 忍耐 休憩 警戒 優しい 恵み 慈愛 騒音

索引

六 次の [] 内に漢字を書き入れなさい。

アーネストは [] はたら [] き者で、 [] で、人づき合いもよく、

このたわいもない [] にふけるために、 [] をおろそ

かにするようないことはありませんでした。彼の [] は

[] だった。アメリカの [] はケネディに決つ

た。 [] を [] する。彼は [] だ。

しんり たんきゅう けんちんか

二期期末考査成績

クラス	男子平均	女子平均	クラス平均
二の五	六一・八	六七・七	六四・七
二の六	六三・二	七〇・一	六六・五
二の七	六一・八	六七・七	六四・二
二の八	六二・〇	七一・〇	六六・一